

令和3年度（2021年度）八王子市立中学校・義務教育学校（後期課程）使用教科用図書調査研究報告書（選定資料作成委員会）

種目 保健体育（1/1枚目）

発行者名 調査の観点	東京書籍	大日本図書	大修館書店	学研教育みらい
<p>1 内容 (1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 (2)生徒の発達段階に対して配慮しているか。</p>	<p>(1)学習指導要領の目標及び内容の押さえ方への配慮 ・写真やグラフの色分け等が見やすく、本文の内容に説得力をもたせたり、生徒の思考を促したりできるような工夫をしている。 ・ストレスの対処では、その場でできるストレッチや呼吸法を取り上げ、実践できるような工夫をしている。応急手当では、心肺蘇生法の他に止血法や包帯法等を分かりやすく扱っている。 (2)生徒の発達段階への配慮 ・自身の行動を振り返るチェックシート等が設けられ、年代に応じて健康保持の実践力が養われるような工夫をしている。</p>	<p>(1)学習指導要領の目標及び内容の押さえ方への配慮 ・話し合う課題が多く設定され、自ら思考し、他者へ伝える力を養う工夫がされている。 ・ストレスの対処では、リラクセーションの方法や友達が悩んでいるときのアドバイスの仕方について取り上げている。応急手当では、心肺蘇生法について見開きで分かりやすく示している。 (2)生徒の発達段階への配慮 ・アンガーマネジメント等の新しい心理的スキルや、がん治療の選択等、近年の話題に触れ、生徒の関心を引き出す工夫がある。</p>	<p>(1)学習指導要領の目標及び内容の押さえ方への配慮 ・導入時の「課題をつかむ」の内容で生徒の主体的な思考を促している。 ・ストレスの対処では、実習としてリラクセーションの方法や呼吸法等を扱っている。応急手当は、心肺蘇生法、止血法、包帯法、固定法が写真やイラストで分かりやすく示している。 (2)生徒の発達段階への配慮 ・藤井聡太さんの自己形成等、生徒と年齢の近い人物を取り上げることで興味関心を引き立てている。</p>	<p>(1)学習指導要領の目標及び内容の押さえ方への配慮 ・グラフ等のデータが多く、実際の数値や情報をもとに、課題発見や考察が行いやすい。思考力を高める工夫が見られる。 ・ストレスの対処では、ストレッチの他にコミュニケーションの取り方、心と体のSOS、いじめについても取り上げている。応急手当では心肺蘇生法、熱中症、救助方法等を幅広く扱っている。 (2)生徒の発達段階への配慮 ・第1学年ではリラクセーション、第2学年ではメンタルトレーニングに触れる等、段階的な実習が掲載され、生徒の興味関心を引き出す工夫がある。</p>
<p>2 構成上の工夫 (1)重点調査項目「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。 (2)構成・分量等、生徒の発達段階を十分に配慮しているか。</p>	<p>(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・「課題の解決」の中で「グループで考えてみよう」という設問が設定され、対話的な学びにつながる工夫がある。 ・「広げる」で深い学びに向かう設問を位置付けている。また、すべての単元ではないが「活用する」という設問があり、自身の生活に当てはめて考えることができるような工夫をしている。 (2)各領域の構成・分量 ・課題解決に取り組む、知識・技能を習得する形式になっている。コンテンツ内容が豊富に示され、インターネットを使った学習に取り組める工夫がある。 ・全192ページ、口絵12ページであり、技能や章末の発展的な資料もイラスト使って分かりやすく示している。</p>	<p>(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・「話し合ってみよう」という設問があり、対話的な学びに広がりが出るような工夫が見られる。 ・「やってみよう」「調べてみよう」等、様々な活動を通して課題解決学習に取り組め、「活用して深めてみよう」によって、より深い学びへとつなげるような工夫をしている。 (2)各領域の構成・分量 ・左ページの本文ではこの時間で学習したい知識を示し、右ページには学習を深めるための資料を掲載している。「ミニ知識」で発展的、「リンク」で系統的に学習が行える構成となっている。 ・全172ページ、口絵20ページであり、資料がすべて右ページにまとめられている。イラストを使って分かりやすく示している。</p>	<p>(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・「学習のまとめ」の中で「グループで考えてみよう」「話し合おう」「生かそう」「確認しよう」という設問が設定され、対話的な学びにつながる工夫がある。 ・章の終わりの「クローズアップ」では学びを広げ、深い学びにつなげる工夫がある。 (2)各領域の構成・分量 ・章とびらでは、これから学ぶことを生活とどのように結び付けていくのかを確認できるよう工夫している。本文では、知識を広げられるように関連する資料を多く取り入れている。 ・全184ページ、口絵12ページであり、資料やイラストも多く、今日的な課題についての掲載も豊富である。</p>	<p>(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・「まとめる・深める」では、「意見を出し合う」等の対話的な活動が行いやすいように工夫している。 ・章のまとめでは、「生かそう」と「生活への活用」という設問があり、学んだことを活用し、実生活と結び付けてさらに深める工夫がある。 (2)各領域の構成・分量 ・本文では、「振り返る」「考える」「調べる」「説明する」「表現する」「言語」「話し合う」「協議」等が明確に示され、生徒も教員も学習活動が分かりやすい構成になっている。 ・全200ページ、巻末資料3ページであり、補足資料の文章量、情報量が豊富である。</p>
<p>3 情報活用能力の育成に関する配慮をしているか。 (1)生徒の情報活用能力を育む構成となっているか。 (2)生徒一人一人がコンピュータを活用できる工夫がされているか。</p>	<p>(1)図や表の活用 ・図や表等の資料が多く、理解を深めるように工夫している。 (2)QRコードの内容 ・シミュレーションや動画等を教科書の内容に合わせて独自で作成している。学習に関連した内容のデジタルコンテンツが豊富である。他教科とのリンクも充実している。</p>	<p>(1)図や表の活用 ・図や表は大きく見やすく作成されていて、内容も充実し、学習の広がりをイメージしやすくなっている。 (2)QRコードの内容 ・まとめの問題が充実しており、知識の定着を図るよう工夫している。</p>	<p>(1)図や表の活用 ・図は写真よりもイラストが多く、生徒が親しみやすいように作られている。 (2)QRコードの内容 ・外部リンクが充実しており、生徒が課題をつかみやすくなるように工夫している。</p>	<p>(1)図や表の活用 ・図や表に加えて、挿絵も多く、内容をイメージしやすいように作られている。 (2)QRコードの内容 ・外部リンクが豊富であり、生徒一人一人の興味関心を学習につなげる機会を設けている。</p>
<p>4 使用上の便宜 (1)教員にとって、使いやすくなるための配慮がされているか。 (2)生徒にとって、読みやすい表現であるか。 (3)地域性に対して配慮しているか。</p>	<p>(1)教員にとっての使いやすさ ・1単位時間では「学習課題」が明確に示され、「見つける」「課題の解決」「活用する」「広げる」の4ステップで授業を展開する形式になっている。 ・章末には、資料や事例が豊富に掲載され、発展的な内容に取り組むことができる。 (2)生徒にとっての読みやすさ ・キーワードを見やすくし、簡潔に表現している。行間が広く、すっきりして見やすい。資料の量も豊富である。 ・章末には、学習のまとめ問題が掲載され、学習の振り返りを行いやすくしている。 (3)地域性 ・中学生が地域の人と協力して活動する場面が取り上げられ、地域について調べる活動が設定されている。郷土の文化に触れられるような工夫が見られる。</p>	<p>(1)教員にとっての使いやすさ ・1単位時間では「学習のねらい」が明確に示され、「つかもう」「話し合ってみよう」「活用して深めよう」の3ステップで構成している。「つかもう」では効果的なピックスを掲載している。 ・章末には、学びを広げる資料とあわせて、学びを生活に生かすためのページが加えている。 (2)生徒にとっての読みやすさ ・文章と資料が左右のページに分けて、読みやすくしてある。資料は豊富であり、イラスト等で分かりやすく示されている。 ・章末には、重要な言葉のまとめが掲載され、復習をしやすくしている。まとめ問題は、ウェブサイトに掲載している。 (3)地域性 ・身近な人との交流をイラストで示し、地域の一員であることを意識できるようにしている。学習したことを家庭や地域で活用できるように工夫している。</p>	<p>(1)教員にとっての使いやすさ ・1単位時間では「きょうの学習」でねらいが示され、「つかむ」「展開」「まとめ」の3ステップで構成され、コラムや事例を取り入れ、指導内容をイメージしやすいように工夫している。 ・章末には、特集資料として実生活と結び付けて考えることができる資料を掲載している。 (2)生徒にとっての読みやすさ ・文字は大きく、段落ごとの小題も色付けされており見やすい。写真やイラストも男女比等に偏りがなく、鮮明である。 ・章末には、知識・技能の確認問題だけでなく、思考・判断・表現の問題を掲載している。 (3)地域性 ・日本各地の様々な地域の写真が豊富に紹介され、自身の地域への関心につながりやすくなっている。身の回りに起こりやすい事例を取り上げ、当事者意識をもちやすくしている。</p>	<p>(1)教員にとっての使いやすさ ・1単位時間では「学習の目標」が明確に示され、「課題をつかむ」「展開」「まとめる・深める」の3ステップで構成され、ページ内に資料等の情報が豊富に取り入れられている。 ・章末には、学習を「もっと広げる深める」ための資料や探求するための資料「探求しよう！」を掲載している。 (2)生徒にとっての読みやすさ ・挿絵も多く、注釈も分かりやすい。行間が広く、すっきりとしているので見やすい。最新の情報、話題が入っている。 ・章末には、学習の振り返りができるページを掲載している。キーワードや生活に生かすための問いをあげている。 (3)地域性 日本各地の様々な地域の写真が豊富に紹介され、自身の地域への関心につながりやすくなっている。具体的な施設名も示され、興味・関心を引き出す工夫がある。</p>
<p>5 その他</p>	<p>(1)SNSや情報モラルについて ・章末資料でコミュニケーショントラブルや健康、犯罪などの問題点を取り上げている。 (2)SDGs(持続可能な開発目標)について ・保健分野「健康な生活と疾病の予防」の章末で保健体育の学習内容との関連性を考える内容として扱っている。 (3)オリンピック・パラリンピックについて ・巻頭写真や章末資料で選手のメッセージやオリンピックの歴史を扱っている。 ・オリンピック・パラリンピックを通じた社会との関わりやアンチドーピング等の内容を取り上げている。 (4)防災教育について ・地域マップの作成手順が掲載されいて、学習しやすい。章末資料では台風の被害状況の写真を取り上げている。 ・体験を挿絵に起こし、見やすく疑似体験につながりやすい資料となっている。</p>	<p>(1)SNSや情報モラルについて ・口絵でスマートフォンとの付き合い方を説明し、保健体育の視点から健康で安全な使用方法を考えるように工夫している。 (2)SDGs(持続可能な開発目標)について ・環境問題のなかで「気候変動に具体的な対策を」「海の豊かさを守ろう」に触れている。 (3)オリンピック・パラリンピックについて ・巻頭写真で選手やオリンピックに関わる人に触れ、資料ではオリンピックの歴史や日本での開催を扱っている。 ・オリンピック・パラリンピックの情報量が豊富であり、各大会のエピソードを記載し、関心をもたせる工夫がある。 (4)防災教育について ・ハザードマップや資料を用いて、避難時の日頃の備えについて取り扱っている。 ・資料に事例が多く、防災についての取組や生活に関わることをイメージしやすくなっている。</p>	<p>(1)SNSや情報モラルについて ・スマートフォンの習慣を見直す事例提示、自ら考える項目やSNSの正確性を判断する項目が設けられている。 (2)SDGs(持続可能な開発目標)について ・口絵で保健体育の学習と関わり深いものを取り上げて扱っている。 (3)オリンピック・パラリンピックについて ・巻頭写真やコラム等でオリンピックの歴史や意義、東京オリンピックについて扱っている。 ・クローズアップでは、エンブレムに込められたメッセージやオリンピックと女性スポーツ、レガシーについても触れている。 (4)防災教育について ・地震・気象災害から命を守る行動を写真等を使用して考えられるように工夫している。 ・特集資料では、命を守る行動が状況によって分かりやすく示している。</p>	<p>(1)SNSや情報モラルについて ・資料やコラムなどにおいて健康問題との関連やインターネットでの被害状況、被害防止の注意点を取り上げている。 (2)SDGs(持続可能な開発目標)について ・体育編「文化としてのスポーツ」でスポーツとの関わり、保健体育学習のまとめの環境問題の中で取り上げている。 (3)オリンピック・パラリンピックについて ・東京オリンピック・パラリンピックまでの歴史を取り上げ、関心をもたせている。科学技術の進歩についても触れている。 ・巻頭写真や探求内容としてオリンピックの歴史や意義、オリンピックレガシー、嘉納治五郎について扱っている。 (4)防災教育について ・防災について6ページにわたって、台風や大雨についても深く取り扱っている。 ・資料では、場面や状況をイメージしやすいように挿絵が豊富に取り入れている。</p>